

フォレスター活動民国連携調整会議は、北海道及び北海道森林管理局の森林総合監理士（フォレスター）等が、市町村等への技術的援助やその他必要な協力を円滑かつ効果的に実施するため、情報共有の徹底と連絡・調整等を図ることを目的に設置しています。

### 北海道檜山郡上ノ国町

## 「盛土地拵」による低コスト施業の検証

### 低コスト施業現地検討会の開催

#### ＜関係機関＞

北海道森林管理局函館事務所、駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター、後志森林管理署 檜山森林管理署、渡島森林管理署、渡島総合振興局林務課・東部森林室・西部森林室、檜山振興局林務課・森林室

### 背景と経過

#### 現 状

- ・ 渡島檜山地域の人工林主要樹種は、トドマツ（56%）、スギ（22%）、カラマツ（14%）で標準伐期齢以上の林分が74%と利用期を迎えている林分が多い。
- ・ 主伐、再造林の大幅な事業量増加が見込まれているが、造林経費等の問題から再造林が進んでいない。

#### 問題点

- ・ 主伐、再造林量の大幅増加が見込まれる。
- ・ 再造林の初期コストが森林所有者にとって大きな負担となっている。
- ・ 林業労働者の不足も進んでおり、造林作業の省力化をはじめ各種対策が求められている。

#### 課 題

- ・ 造林コストの低減が必要
- ・ 作業の省力化が必要

#### 解決策

- ・ 造林コストの低減と、作業の省力化を目的として研究・検証した現地で検討会を開催し、地域関係者に広く情報発信する。

# 実施の状況と結果

## ① 渡島檜山地域林政連絡会議の開催

### 【実施内容】

時期：令和4年7月1日

場所：渡島総合振興局 会議室

内容：新型コロナウイルス蔓延防止のため書面開催としていた会議を2年ぶりに対面で開催。地域課題等について検討し、下刈作業の省略を目的として平成30年に設置した「盛土地拵」試験地の現地検討会の開催を決定。



渡島檜山地域林政連絡会議

## ② 現地検討会の開催

### 【実施内容】

時期：令和4年10月27日

場所：上ノ国町（国有林）

参加者：渡島・檜山森林管理署、道、市町職員  
計44名

内容：造林コストの低減と作業の省力化を目的に「盛土地拵」を実施した現地において、渡島檜山地域林政連絡会議の取組として、現地検討会を開催。

協議会から以下のとおり、「盛土地拵」に関する報告を行ったところ、森林室、森林管理署、民有林関係者から活発な意見交換あり、地域の造林コストに関する検討を行うことができた。



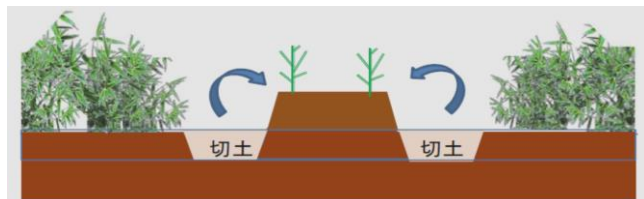
平成30年に「盛土地拵」を実施

### 【盛土地拵のコスト・効果など】

- ・ 盛土地拵経費は、普通地拵(全刈)より1%高
- ・ 現地は下刈り5年間未実施
- ・ 4年生時の植栽木生存率 = 90~100%
- ・ コストの単純比較で経費6割減
- ・ 下刈りの回数減による省力化
- ・ 造林コスト減により森林所有者にメリット
- ・ 少ない作業員で大面積の地拵が実施可能



設定当時の「盛土地拵」



「盛土地拵」イメージ

## 今後の展開

引き続き「盛土地拵」による効果や有効性を検証するとともに、造林コスト低減の情報を提供できるように、民国連携した取組を継続して進めていきます。



現在の様子「トドマツ5年生」



## 森林・林業技術の普及に向けた市町村への支援

### オホーツク東部地域の民国関係機関が連携・協力した活動

#### <関係機関>

清里町、斜里町、小清水町、大空町、美幌町、網走市、オホーツク総合振興局網走東部森林室・産業振興部林務課、網走南部森林管理署 等

## 背景と経過

### 現 状

- ・地域の森林資源が成熟期を迎えているが、各市町村が管理する農地や農作物等を保護するために設置された耕地防風林も整備時期が迫ってきている。
- ・防風林としての機能維持を図るための整備方法等の知識・技術が不足している。

### 問題点

- ・耕地防風林は林地と農地が接していることなど立地的条件や従来の日陰木処理の耕地防風林整備では、数年で元に戻るのでは根本的な森林整備となっていない。
- ・防風林整備が進まない現状から、立枯れや倒木等が発生し、隣接する農地や農業機械の走行に影響を及ぼしている。

### 課 題

- ・市町村職員等への耕地防風林の森林整備に関する知識・技術の習得が必要。
- ・地域の関係機関等が連携・協力し、耕地防風林整備や施設整備の具体的手法の確立が必要。
- ・耕地防風林整備にあたっては、地元関係者等の理解と協力が必要。

### 解決策

- ・オホーツク総合振興局やオホーツク東部地域の市町村、地元関係者との意見交換会等を開催し、市町村職員の森林整備に関する知識・技術の向上を図る。
- ・地域共有の財産である耕地防風林の整備に向けた理解促進を図るため、地元自治体へ情報共有と理解を得ながら協力関係の構築に繋げていく。

## 実施の状況と結果

### ①耕地防風林整備における地元関係者への説明と関係機関による意見交換会の実施

#### 【実施内容】

時期：令和3年11月10日・11月17日・  
11月22日・12月3日

場所：網走南部森林管理署（室内）  
清里町国有林（現地）

内容：地域の共有財産として、防風林の多面的機能や効果、国有林で実施した耕地防風林整備の概要や整備を行う必要性について説明を行い、地元関係者と意見交換を実施した。



地元関係者への説明

## 【成果】

事前に防風林整備を実施する地元関係者に説明も行っており、防風林整備は特段の支障もなく順調に進んだ。

地元関係者からは、「森林整備の必要性が理解できた」、「雪の吹きだまりがなくなり融雪が早くなった」、「ICT農業のGPS電波障害がなくなった」等の意見がだされ、地元関係者の理解の促進と防風林整備を行うメリットが共有できた。

また、市町村の職員を含む関係機関とも意見交換会を実施し、耕地防風林管理の課題や解決策、防風林整備の留意する点など共有を行った。有識者からは、林体幅の狭い防風林整備の考え方や更新方法についてアドバイスをいただき、理解を深めることができた。



現地にて地元関係者への説明

## ②リモコン式刈払機の現地見学会の実施

### 【実施内容】

時期：令和4年11月8日

場所：小清水町国有林

内容：造林作業における下刈作業の省力化や低コスト化を図るため、リモコン式草刈機の実演と市町村職員等を含む関係機関と意見交換を実施。



関係機関との意見交換

### 【成果】

リモコン式下刈機の導入にあたり、植栽方法の改善（コンテナ苗・低密度植栽）や機械化（地拵・下刈り）に向けた実践的な取組事例について意見交換を実施し、林業作業の省力化や低コスト化に向け理解を深めることができた。



リモコン式刈払機の実演

## 今後の展開

耕地防風林は、防風林としての機能はもちろんのこと、立地的条件、循環的な森林資源としてのポテンシャルを有していることによる冬期の林業事業体の雇用安定や地域の観光資源としての景観的配慮に期待されている面もあることから、総合振興局、各市町村とも連携し適切な管理経営を行う。

また、耕地防風林の森林整備等にあたっては、引き続き、地元関係者等の理解と協力が不可欠なことから、関係機関と連携した取組を進めていくとともに、造林作業の省力化や低コスト化に向けて、民国連携による推進を展開していく。

発行：フォレスター活動民国連携調整会議事務局

北海道水産林務部森林環境局森林活用課

〒060-8588 北海道札幌市中央区北3条西6丁目

電話(011)204-5517(直通)

北海道森林管理局森林整備部技術普及課

〒064-8537 北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番地

電話(011)622-5245(直通)